

令和2年度 竹田教育事務所 第2回学校訪問まとめ

【目的等】

目的	学校訪問確認シート、目標達成マネジメントツールを活用した検証・改善の状況、「新大分スタンダード」に基づく授業改善、その他学校が抱えている課題について協議を行うとともに、解決のために必要な指導・支援を行う。
期間	令和2年10月19日(月)～12月8日(火)

1. 「学校マネジメント4つの観点」における事務所評価

観点	S	A	B	A以上の割合	S評価の割合
I 学校の教育目標、重点目標等の設定・共有	20	15	0	100%	57.1%
II 短期及び年度を跨いだ検証・改善の実施	30	5	0	100%	85.7%
III 主任等が効果的に機能する学校運営体制	17	18	0	100%	48.6%
IV 学校・家庭・地域による目標の協働達成	0	20	15	57.1%	0%

2. 「学校マネジメント4つの観点」に基づく学校マネジメントの深化

観点I 学校の教育目標、重点目標等の設定・共有 (Plan)

①「学校評価の4点セット」において、育成を目指す資質・能力は児童生徒の実態及び課題をふまえた上で設定されている。	35/35
②学校の教育目標と重点目標は、児童生徒の実態を捉え、連携・協働する保護者や地域の方が見ても育成を目指す資質・能力が明確なものとなっており、保護者や地域と共有できている。	34/35
③学校評価の4点セットの策定プロセスでは、管理職の下、主任等を中心に、それぞれの重点目標の達成に関わる全教職員が関与できている、その内容が共通理解されている。	35/35
④「学校評価の4点セット」において、重点的取組、取組指標が、重点目標の達成に近づくため有効かつ妥当なものになっているといえる。	35/35

観点II 短期及び年度を跨いだ検証・改善の実施 (Check・Action)

①学校評価の4点セットの検証・改善サイクルの回数	学期1回 18 学期2回 13 月1回 4
②上記以外で、取組によってはさらに短いサイクルで検証・改善を行っている。	20/35
③検証・改善は「検証・改善プロセス」に沿って効果的に行われている。	29/35
④学校評価の4点セットの検証・改善は、教務主任をはじめ、重点目標の達成に関わる主任等が主体的に関わりながら、全職員体制で行った。	35/35
⑤家庭や地域が行う取組(指標)については、学校運営協議会等で熟議するなど、それぞれが主体的に検証・改善できる体制ができている。	27/35

観点III 主任等が効果的に機能する学校運営体制

(ミドル・アップダウン・マネジメント、効果的・効率的なチーム体制の構築)

①主任等は、目標達成に向けて組織的な取組が行われるよう、その分掌に所属する他の教職員の目標設定や年度途中の進捗管理に関わることができている、その役割と責任を果たすことができている。	33/35
②会議・分掌・行事等の見直しを行うことで学校運営の効率化が図られ、その成果を感じられるものがある。	34/35
③養護教諭・栄養教諭、学校事務職員等の少数職種の教職員、SC・SSWや部活動指導員等の専門スタッフ等がその専門性を発揮する必要な体制整備ができている。	35/35
④各種校内委員会やケース会議に少数職種の教職員や専門スタッフが定期的に参加でき、必要十分な情報を日常的に共有する環境が整備できている。	35/35

観点Ⅳ 学校・家庭・地域による目標の協働達成（目標協働達成）

①「学校評価の4点セット」に、家庭・地域のそれぞれが主体的に取り組むことができる重点的取組と取組指標が設定できている。	35 / 35
②学校の教育目標と重点目標、目標達成に向けて学校・家庭・地域が役割分担して取り組む内容について共有し、熟議する体制ができている。	28 / 35
③学校・家庭・地域の全体としての負担軽減や学校における働き方改革の推進に繋がる取組が学校評価の4点セットに記載され、それを推進する体制整備ができている。	33 / 35
④学校・教師が担ってきた業務のうち、代表的な14の業務の在り方に関する考え方を踏まえて、学校・家庭・地域の役割分担が明確にできている取組がある。	18 / 35

3. 学校における働き方改革の推進

①教職員の勤務時間を客観的に把握・分析し、児童生徒の登下校時刻の設定、部活動、学校の諸会議等について、教職員の勤務時間等を考慮して時間設定できている。	35 / 35
②「学校評価の4点セット」の重点目標に働き方改革の推進を位置づけ、「1改善運動」を勤務実態改善計画の下で着実に進めることができている。	30 / 35
③養護教諭、学校事務職員等の少数職種を含む教職員や、SC・SSW、部活動指導員等の専門スタッフ等が専門性を発揮・活用できる体制を構築できている。	35 / 35
④ICTを活用した業務改善ができている。	28 / 35

4. 「地域とともにある学校」への転換促進⇒※家庭や地域との連携、学校の重点目標の共有状況、「協育」ネットワークによる学校支援活動の状況等について

①学校・家庭・地域が役割分担して取り組む内容を共有・熟議し、PDCAサイクルにより検証・改善を行う体制ができている。	31 / 35
②目標達成に向けて学校運営協議会内に重点目標毎に推進部会等の設置ができている（設置を検討している）。	設置済 20 検討中 14
③地域連携担当教職員と地域学校協働活動推進員等の協議を定期的実施するなど、継続性のある協働活動に向けた体制ができている。	19 / 35
④学校運営協議会の年間の実施回数。	2回 1 3回 28 4回 4 6回 2

5. マネジメントツールを活用した教育課程レベルでの校種間連携の推進

【小学校】

①来年度に向けて、中学校と重点目標、重点的取組、及び各指標の摺り合わせを行った上で「学校評価の4点セット」等のマネジメントツール及び教育課程の編成をしていく予定である。	13 / 22
②スタートカリキュラムを作成し、実施した。	21 / 21 (菅生小新入生なし)
③上記で実施したものについて、見直しを済ませた。	1 / 21

【中学校】

①来年度に向けて、小学校と重点目標、重点的取組、及び各指標の摺り合わせを行った上で「学校評価の4点セット」等のマネジメントツール及び教育課程の編成をしていく予定である。	12 / 13
②中1ギャップに対応した特別なカリキュラム等を作成し、実施した。	実施 8 作成中 2
③上記で実施したものについて、見直しを済ませた。	4 / 8

6. 授業改善の取組を活かしたカリキュラム・マネジメントの推進

①1学期の取組や調査結果を基に学力向上プランの検証・改善を実施した。	35/35
②1学期の取組等を基に、教科横断的な単元配列表についての検証・改善を行った。	20/35
③「新大分スタンダード」に基づいた授業を、単元(題材)のまとまりを見通して1単位時間の「ねらい」や評価規準の適切さ等を確認しながら実施できている。	35/35
③「2020からの新しい授業づくりハンドブック」を全教員で、授業改善の具体化に活かしている。	28/35

7. 特別支援教育の視点からの授業改善(「個別の指導計画」作成率向上と活用の取組)

①「個別の指導計画」について、検証・改善、見直しなどをどのくらいの頻度で行っていますか。	年間1回	5		
	学期1回	27		
	学期2回	1		
	月に1回	1		
②「個別の指導計画」推進教員の活用をした。(予定がある)	活用	15	予定	8

8. 「中学校学力向上対策3つの提言」の取組状況等について。

①生徒による授業評価が計画的に行われ、「学校評価の4点セット」及び授業改善の検証・改善に反映させることができた。	13/13
②学習集団としての目標設定や振り返りが計画に基づいて行われている。	12/13
③学校規模に応じた教科指導力の向上(校内、近隣校との連携)を計画的に行っている。	13/13

9. 運動の習慣化・日常化に向けた組織的取組の推進

①日頃の児童生徒の実態や体力調査の結果から体力向上プランの検証・改善を実施した。	35/35
②日頃の児童生徒の実態や体力調査の結果から「一校一実践」の検証・改善、見直し等を実施した。	35/35
③DE(低体力)層への支援を実施(予定)できている。	32/35
④体力運動能力調査(課題のある項目のみの実施を含む)の実施回数(予定)について	年間1回 9 2回 22 3回以上 3

10. いじめ・不登校対策等の推進

①2学期に向けて、いじめ対策・不登校児童生徒支援プランの検証・改善を実施した。	35/35
②「児童生徒支援シート」の活用ができている。	25/35
③人間関係プログラム等を活用した「居場所」や「絆」を意識した学級づくりが実施できている。	35/35
S C, S S W等の校内委員会への参加や研修活用が実施(予定)できている	34/35